

東みよし町文化財マップ 三加茂地区

1 炭焼きのお大師さん



本尊弘法大師。大師がこの地で炭焼きの技法を伝えたという。南の山麓には三二八か所が並ぶ。

2 地藏町のお地藏さん



文化5年(1808)に建立。台石に「三界萬霊」と刻む。水難者の供養とあわせて交通安全を祈ったと伝わる。

3 天神塚・すずめ塚



古墳時代中期の円墳。直径16m・高さ2m・未発掘。道を隔ててすずめ塚があり、また北側には周濠と住居、勾玉工房跡がある。

4 金川池



享保3年(1718)に築造。東西180m・南北70m・深さ6mの灌漑用池。桜並木を境に真広池(昭和5年)がある。

5 名号塔



高さ6.6m・幅1mの緑泥片岩。県下有数の巨塔「南無阿弥陀仏 本阿」と刻む。文化文政期の建立か。(1804~1829)

6 石敢当



高さ1.8mの緑泥片岩「文久二戊寅(1862)石敢当」と刻む。魔除け「鬼門堂はん」と言われている。

7 加茂の大クス



樹高26m・根回り23.35m・枝張り東西52m・南北42m・樹齢約1000年。雄大な樹容等、総合的に日本一のクス。

8 加茂農村公園



平成11年に開園。緑とハーブの公園である。山麓の裾野に広がるため眺望がよい。西上段に古式の地神さんと「忠魂碑」がある。

9 神通の滝



落差25m。静寂にして深山幽谷の趣のある谷。修行場として有名。近くに不動院がある。

10 丹田古墳



標高320m・全長37mの前方後円墳(竪穴式石室で合掌式天井をもつ)。鏡・刺・斧等が出土。4世紀の築造といわれる。

11 桐下駄工場



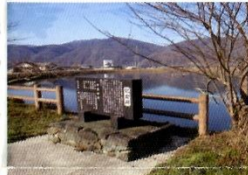
明治~昭和中期まで、かじやしき周辺で栄えた伝統産業。全盛期には、70業者で100万足の生産を誇りまさに全国的な産業であった。

12 鴨神社36歌仙画 他



渡辺広方(江戸末期の画家)作の36歌仙画が奉納されている。鴨神社には他に、町指定の文化財である東馬図と鶴口、しめあげ神事(神おくり神事)がある。

13 西庄池



宝永(ほうえい)年間(1704~1710)に築造。東西南北各135m・水深4mの灌漑用池。その昔、中庄西庄の、激しい水争いの史実を秘める。

14 八柱神社の杉



日通し5.6m・樹高31m余・樹齢800年余の巨樹が境内の左奥にある。神木として崇拝。眼下に西庄池をみる。

15 かじやしきのお地藏さん



高さ1.9mの台石に「三界萬霊永(かえい)二己(き)きゅう)年(1849)と刻む。天保13年(1842)加茂山騒動の主謀者の供養塔。

16 岩神古墳



加茂谷川をはさんで丹田古墳と相対する。標高350m・直径20mの円墳(推定)未発掘。

17 回国塔



全国66の寺社を巡り法華経を納経した記念碑。「奉供養大東妙典日本廻国 文政12年丑(1829)佐五郎内 願主婦美」等を刻む。

18 秀森塚



中庄八幡神社古墳群の一基。古墳時代後期の円墳。高さ2m・直径16m。その後木地蔵が隠・柳等を作ったといわれる。

19 金丸鹿寺跡



白鳳・天平文化の川原寺式(奈良)の軒丸瓦・軒平瓦等の破片を出土。昔この地を合蔵(ごうざ)と呼んだ。

20 八幡神社 磐境 他



周囲に400に近い数の緑泥片岩で構成された磐境があり「結界石」といわれる。この八幡神社では、宵宮神事(県指定無形民俗文化財)が毎年行われている。

21 長善寺 駅路寺文書 他



阿波藩独自の宿寺で、慶長3年、初代藩主家政の御定書(おさだめがき)を所蔵する。長善寺の絵図(文殊菩薩像及び金剛薩埵像)は、国指定の重要文化財である。

22 中庄の板碑



弥陀三尊・石造りの供養塔。「貞治二 癸卯(1363)八月十二日 長賢」と刻む。高さ184cm・巾48cm。貞治は北朝の元号。

23 林下寺 お花大権現



西日本随一の性の神様として人々の信仰が厚く、多くの参拝者が訪れる。縁結び、子授、安産等の御利益があるといわれる。

24 山口城跡



祖谷平氏の監視所として築城。以来南北朝を経て、天正10年(1582)長宗我部軍の攻撃にあい落城したと伝わる。

25 太良 三郎はん



西法寺境内に兄弟碑を記す。太良(たら)は尚高、三郎は足痛に豊駿約(あたら)かといわれる。

26 夜泣き地藏



投身した母子の供養塔。高さ120cm・巾40cm。台石に「三界萬霊 弘化二乙巳年(1845)と刻む。夜尿症に豊駿約(あたら)かといわれる。

27 舞寺



弘法大師が、丸木に観音像(矢負観音)を刻んだと伝わるが、馬や養蚕の守護神もあり、平家伝説が残る。

28 いくさ場



平家の落人と追手の激闘跡と、山口城落城の際の落人と追手の激闘跡の二説が伝わる。

29 六地藏峠



穴名の強力(ごうりき)がこの峠にて落命。その供養に建立したと伝わる。

30 高良堂



弘法大師が杉の大木で尊像を刻んだと伝わるが、現在は江戸後期の右の大師像を祀る。

31 西庄のエドヒガン



フユツタを含む日通周囲が3.6mで、エドヒガンとしては、県下でつるぎ町古良のエドヒガンに次ぐ大木。

32 照王神社 獅子舞 等



1千余坪の境内を有する大きな神社。農作物の虫除けの神を祀る。大祭に獅子舞が奉納されていた。合祀(ごうし)により、狛犬等の石造文化財が数多くある。

33 薬師堂のケヤキ



高さ40m、目通し6mの樺(ケヤキ)。通称「カイケの木」。薬師堂は牛の病にご利益があるという。

34 大藤の板碑



弥陀三尊。康和己巳年(1389)11月9日と刻む。高さ119cm。康和は北朝の元号である。阿弥陀堂の境内にある。

35 経塚



鎌倉時代以降、瓦経、経筒を埋めて仏法の再興を祈る信仰があった。十輪寺の経塚は未発掘。

36 風呂塔



標高1,401m。東みよし町役場の南方に高く聳える山。まわりに五行の神を祭ったという。山腹に銅の精錬跡がある。

37 加茂谷川岩陰遺跡群5号



標高500mにあつて南向き。約8000年前の縄文時代、早期の埴型土器が出土した。

38 白内の板碑



白内庵に二基。弥陀三尊碑は南北朝、地藏立像の碑は室町期の遺造と見られる。

39 桑内修行大師



毎年1月16日と9月16日に数珠繰り供養が行われる。境内に加茂山騒動(天保13)の義人墓がある。

40 地神塔



寛政元年(1789)阿波藩主の命で境内各地に建立されたうちの1つ。五角形の柱に五柱の神名を刻む。

41 加茂谷川 岩陰遺跡群1.2号



約6000年前の縄文前期から晩期の土器が出土。縄文人のキャンプ地(仮泊地)といわれる。

42 中庄西遺跡



7世紀ごろの竪穴住居群の集落跡や平安時代の条里遺構・多数の土器・和銅開珎や釈迦如来が彫り込まれた鏡像が出土した中世の遺跡

43 中庄東遺跡



飛鳥時代・奈良時代(長于地区)及び弥生時代~中世(大坪地区)にかけての遺跡で、集落跡から銅製銚帯、陶甎などの遺物が出土した。

44 歴史民俗資料館



加茂谷川岩陰遺跡群や丹田古墳から出土した考古資料をはじめ、中世から近代にかけての遺物、古文書など貴重な歴史・民俗資料が展示・収蔵されている。

- その他の文化財
- 45 稲荷神社(石灯籠他)
 - 46 興聖寺(宝篋印塔)
 - 47 姫塚
 - 48 条里の遺構(三加茂地区平坦部全体)
 - 49 一ノ坪地藏尊
 - 50 高島の潜水橋 等
 - 51 三番叟まわし木偶 等
 - 52 刃物鍛冶

- 国指定
- 京都国立博物館
 - ▼絹本着色文殊菩薩像
 - ▼絹本着色金剛薩埵藏
- 県指定
- 徳島県立文書館
 - ▼上月文書 附井口家関連資料
 - 徳島県立博物館
 - ▼軍旗
 - ▼菅生文書



- 国指定
- 県指定
- 町指定
- 指定外・その他
- 国道192号線
- 県道
- 町道等 道路
- 徳島自動車道
- 町境
- 歴史民俗資料館
- 東みよし町役場三加茂庁舎

地図の利用目的

- ①町の文化財を知る教材として
- ②歴史ウォーキング
- ③健康ウォーキング
- ④パワースポット探しなど

「いにしえ浪漫街道みかも」の各ポイントに名称と記号を書いた標柱があります。ご活用ください。

文化財の詳細は、東みよし町ホームページをごらんください。

●作成 東みよし町教育委員会
●監修 東みよし町文化財保護審議会

東みよし町文化財マップ

三好地区

- | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|---|---|---|---|-----------------------|
| <p>1 伊古墳跡</p> <p>塚の大きさが、大きな石が積み重ねられ、形をとどめていないが古墳跡である。使われていた結晶片岩の壁石が、歴史資料として足代小学校の玄関前に建てられている。</p> | <p>2 足代八幡神社 ナギの林</p> <p>葉は切れにくく緑が切れにくいと縁起物。東鏡に源頼朝が三野田保を元暦2年(1187)清水八幡宮に寄進した記録が残され、当神社はこの頃清水八幡宮の分室を勧請したとされている。</p> | <p>3 足代城跡</p> <p>東は傾斜が急で西には湯谷があり北は香川川に重要な地であると共に地理的に重要な位置を占めていた。当時の城主は三好備前守であり三好氏の三好郡・市の拠点の城であった。</p> | <p>4 弘法大師坐像</p> <p>右手に五輪塔をとり、左手に数珠を持つ通行の弘法大師像である。弘法大師坐像の威厳あるお姿をよく表現している。おそらく室町時代の作であろう。(増光寺所蔵)</p> | <p>5 東原遺跡</p> <p>積石墓は古く古墳発生の際を握るものと言われている。前方後円墳は比較的小規模であるが遺物から古墳時代の初期頃(320年頃)造られたものでないかと推定されている。</p> | <p>6 西原遺跡</p> <p>遺構は、竪穴住居・土杭・柱穴が検出。出土遺物から弥生時代後期初頭、後期末、中世に大別することができる。住居跡から縄文土器・弥生土器が出土。日常生活の場がうかがえる。</p> | <p>7 過去帳</p> <p>教法寺の過去帳は幕末の50年間農民の遠散物語の高橋・火災・疫病・春旱・天候・災害百姓一揆・地震・異国船・その他種々の事件等が忠実に記録されている。(教法寺所蔵)</p> | <p>8 城の段</p> <p>足代中屋に行く途中左側に民家のあるところを過ぎて50m位行くと、道の下に30メートル(3反)位の平地があり城の段と呼ばれる。岩のような山城として造られていた。</p> | |
| <p>9 光泉寺跡</p> <p>教法寺3代正了の4男正の開基による。教法寺の過去帳によれば天保8年(1837)山口地区に大火事があり光泉寺も全焼したので、本尊仏等を後に太刀野山の花園へ移した。</p> | <p>10 小原遺跡</p> <p>昭和14年5月北岸用水工事の調査で発掘された。弥生時代の各種遺構や遺物、奈良時代から平安時代に至る炭焼遺跡が出土している。また、弥生式の土師器や水晶の自然石も出土した。</p> | <p>11 美濃田の淵</p> <p>奇岩・怪岩の景観が人々に愛されている。これらの岩には名前がつけられており、獅子舞等には昭和28年に着工し、未完成に終わった吉野川緑橋の橋脚が現在も残っている。</p> | <p>12 円通寺遺跡(小山地区)</p> <p>4面壁を持つ2×5間の建物跡・火葬舎・掘・土壘・池等が検出。遺物には土器の鉢・杯・小皿・鏡・磁石・銅銭等。遺構・遺物や口碑文庫から中世の城跡跡と考えられる。</p> | <p>13 西貝川遺跡</p> <p>馬木谷川尻に位置し昭和52年発掘。遺構として徳島県初の直径13mの円形周溝墓が発見された。遺物はサヌカイ製石土器・土師器・須恵器・石鏡・磨製石斧・土師土器・須恵器・石鏡・磨製石斧・土師土器・須恵器・石鏡・磨製石斧等が出土。</p> | <p>14 藤川城四良 茂重良五輪塔</p> <p>寛永5年(1628)道高禅定門、藤原朝臣藤川城四良と刻され高さ191cm。寛文5年(1665)道清禅定門 藤川茂重良 高さ142cm。</p> | <p>15 東屋間城跡</p> <p>美濃田大橋北詰の小山に海宮神社がありここに東屋間城があったと言われている。三好郡村誌によると城主は佐々木右京之進、天正年中大西氏に与し、寛永とともには戦死とある。</p> | <p>16 土井遺跡</p> <p>四国縦貫道建設にともない平成8年～9年にかけて発掘。弥生時代～近世の遺跡。縄文時代後期の農耕具弥生時代の水田灌漑用水路古墳時代280箇所(弥生時代)の竪穴住居跡・土器・土師器等が注目。</p> | |
| <p>17 荒神前遺跡</p> <p>昭和51年～52年にかけて発掘。遺構は直径10.1mの円形竪穴住居跡(奥内最大級)柱穴20箇所。遺物は弥生時代後期の土器・土師器・須恵器・石鏡・磨製石斧・土師土器・須恵器・石鏡・磨製石斧等が出土。</p> | <p>18 土器丸城跡</p> <p>屋間中屋の北の小山、標高218mにあり、土器丸型の山で頂上には稲穂神社が祀られている。古記録によると秋田修理亮、当家は田岡(屋間敷地)のために対死にすたとある。</p> | <p>19 七塚古墳</p> <p>三好中学校グラウンドの東南の岡本氏の持地にある。高さ2.8m、直径3.35mの円墳で頂上に小さな祠がある。昔はこの辺りに6～7個の古墳があったようで、稲穂神社とも。</p> | <p>20 正力遺跡</p> <p>町立柔剣道場の東で昭和52年～53年にかけて発掘。遺構は竪穴住居跡、土坑、溝状遺構、柱穴。遺物は縄文土器・土師土器・須恵器・石鏡・磨製石斧・土師土器・須恵器・石鏡・磨製石斧等が出土。</p> | <p>21 天神前遺跡</p> <p>町立柔剣道場の西、天神社前にあり昭和52年に発掘。溝状遺跡と縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石鏡、磨製石斧などが出土。</p> | <p>22 京伝遺跡</p> <p>昭和51年発掘。円形竪穴住居跡、方形竪穴住居跡、建物遺構、炭焼き窯跡、谷川遺構などが検出。石器類、土器類のほか縄目紋、斜格子紋の平瓦、唐草紋瓦などが出土。</p> | <p>23 立法寺廃寺跡</p> <p>天橋立神社の北東の小学を立法寺と云い、付近からは瓦葺瓦が多数出土している。又、田の中に腰掛け岩といわれた寺の礎石があり、現在は天橋立神社内に移設されている。</p> | <p>24 大柿遺跡</p> <p>昭和51年平成8年に発掘された徳島県最大級縄文時代後期～中世の複合遺跡。縄文時代後期の農耕具弥生時代の水田灌漑用水路古墳時代280箇所(弥生時代)の竪穴住居跡・土器・土師器等が注目。</p> | |
| <p>25 六地藏</p> <p>文化八年(1811)に作られた像であるが、風化少なく六地藏の様態がよくわかる。右端の像の右に「施主九州肥後国御領天草郡財津村」、左に「宝教山阿弥陀寺弟子泰順」の刻字がある。</p> | <p>26 国学者近藤忠直 頌徳碑</p> <p>国学者近藤忠直の功績を称える。近藤忠直は、徳島藩の命により作られた村の戸籍簿である。これにより夫役や身分が定められた。この棟付帳は「山下巖夫氏」寄贈のもので7冊よりなる。(中央公民館所蔵)</p> | <p>27 棟付帳(旧足代村分)</p> <p>郷土が生んだ国学者近藤忠直氏(江戸～明治)の遺書。延喜式は神道研究の宝典で全書完備している。古事記伝は、本居宣長の古事記研究の集大成である。(近藤千秋氏寄贈)</p> | <p>28 延喜式・古事記伝</p> <p>願成寺の神仏分離令に基づき、三好郡内の各神官が各地の神社を調査したものを、阿波国神社調査員の近藤忠直神官がまとめ、明治3年政府に報告した控え。(近藤千秋氏寄贈)</p> | <p>29 三好郡神社 取調指上帳</p> <p>三好郡神社取調指上帳を作成するために、郡内の各神官が神社を調べた資料集。調査は長年行われたようで、慶応四年(1868)から明治5年までのものがある。(近藤千秋氏寄贈)</p> | <p>30 明治初年の三好郡 神社関係資料</p> <p>来迎印の通行の阿弥陀像である。全体におっとりとした感じで丸味をおび、腰前の衣紋の数が少なく、特に大脚部の衣紋は古い様式で、室町時代の作と考えられる。(春吉寺所蔵)</p> | <p>31 阿弥陀如来立像</p> <p>南北朝時代の千早城を陥取ったと言われる南朝方の山城。三方が急峻で一方だけが尾根に繋がりが、寺院の敷石と云われている岩が、近くの民家の庭角に残っている。</p> | <p>32 光明寺跡</p> <p>南北朝時代の千早城を陥取ったと言われる南朝方の山城。三方が急峻で一方だけが尾根に繋がりが、寺院の敷石と云われている岩が、近くの民家の庭角に残っている。</p> | |
| <p>33 大木戸跡</p> <p>田の岡城址内、大木戸と呼ばれる小字名が残っている。ここに大手門があったとも言われており、川原から城内(段丘上)へ入る表参道があったのではないかと考られている。</p> | <p>34 田の岡城跡</p> <p>吉野川北岸、東山城を左側に、吉野川と小川谷川を右側と前面に、段丘上に位置する城址(出城か)である。東西300m、南北510mで、本丸跡には田の岡神社(祠)が鎮座する。</p> | <p>35 回国碑(井上薬師庵前)</p> <p>六十六部と云われる巡礼僧が、書写した法華経を全国六十六所の聖地に納めた記念碑である。享保14年(1729)、大乗妙典六十六部日本回国成就、願主政門俗名菅我部等の刻字がある。(願成寺所蔵)</p> | <p>36 薬師如来坐像</p> <p>願成寺の阿弥陀如来像(日本尊)の左右を飾っていた曼荼羅で、信仰の大切さを説いている。製作年は文政11年(1828)、絵師は浦田頼母督賢(よしさだ)による曼荼羅絵図である。</p> | <p>37 地獄極楽(西方) 曼荼羅一体</p> <p>願成寺の阿弥陀如来像(日本尊)の左右を飾っていた曼荼羅で、信仰の大切さを説いている。製作年は文政11年(1828)、絵師は浦田頼母督賢(よしさだ)による曼荼羅絵図である。</p> | <p>38 大西頼武の供養塔</p> <p>頼武は三好長慶と共に畿内でも戦った戦国武将。老年、白地城で長宗我部の進攻を受け自決した。七代後の子孫が、大西一族の信仰が厚かった願成寺の近くに、建立した供養塔である。</p> | <p>39 土取遺跡</p> <p>この遺跡は弥生期の高地性集落跡で、昭和47年に発掘。標高150m位の所に位置し竪穴住居跡1箇所、壺型、鏝型、高円型、鉢形土器が出土。採集された石器は石鏡など約300点。</p> | <p>40 東山城址</p> <p>南北朝時代の千早城を陥取ったと言われる南朝方の山城。三方が急峻で一方だけが尾根に繋がりが、寺院の敷石と云われている岩が、近くの民家の庭角に残っている。</p> | |
| <p>41 葛籠の五輪塔</p> <p>五輪塔は高さ63cmと59cmの2基である。63cmの五輪塔の水輪の中央には大日如来坐像が彫られている。室町時代末期から桃山時代初期のものではないかと考られている。</p> | <p>42 聖徳寺叢林</p> <p>樹種は桜、楓、樅、ムクロジ、カボノキ、樟形等である。かつては樹高の周囲が1mを超える木が20本以上も林立していたが、台風等で倒れ今は面影のみ残っている。</p> | <p>43 馬岡神社の棟札</p> <p>享禄2年(1529)の棟札で、旧三好町最古のものである。戦国時代、新瀨川から来た六十六部の心海が勧進となり、馬岡神社の本殿を再興したことを読み取ることができる。</p> | <p>44 枝椀ももじ</p> <p>地上50cmのところを枝が分かれている。幹の根元の部分の周囲1.83m。上部の枝の周囲1.03m。下部の枝の周囲0.96m。樹高5.5mである。(藤本氏所有山林)</p> | <p>45 三番叟まわし木偶(えびす木偶)</p> | <p>46 中央構造線路頭</p> | <p>47 願成寺所蔵の十王像</p> | <p>48 法市農村舞台(舟底舞台)</p> | <p>その他の文化財</p> |

- 出土品**
- ▼徳島県埋蔵文化センター
 - 猪形・猿形土器(東原遺跡)
 - 白磁四耳壺・瓦質四耳壺(大柿遺跡)
 - 褐釉陶器四耳壺(蔵骨器)(円通寺遺跡)
 - ▼吉野川ハイウェイオアシス
 - 褐釉陶器四耳壺(レプリカ)



地図の利用目的

- ①町の文化財を知る教材として
- ②歴史ウォーキング ③健康ウォーキング
- ④パワースポット探しなど

「いにしえ浪漫街道みよし」の名ポイントに名称と記号を書いた標柱があります。ご利用ください。

文化財の詳細は、東みよし町ホームページをごらんください。

●作成 東みよし町教育委員会
●監修 東みよし町文化財保護審議会